

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

開催まで3か月余りとなつた、北米における3歳牝馬の大一番G1ケンタッキーオークス(d9F、4月30日、チャーチルダウンズ)へ向けた前売りで、ブックメーカー各社が揃つて1番人気に推すマラサート(牝3、父カーリング)が、今月のJのコラムの主役だ。

G1フリゼットS(d8F)勝ち馬ドリーミングオヴジュリアの3番仔で、祖母もまた、G1エーストS(d7F)、G1プライオレスS(d6F)と2つのG1を制しているドリームラッシュヒュッジョウ、超上質の牝系を背景に持つのがマラサートだ。キー・ハランド9月1歳セール上場されたこと、ドバイのハムダン殿下の競馬組織シャドウエルに105万ドル、当時のレードで約1億1409万円で購買された。良血の高馬といふ、絵にかいたようなエリートを管理するJCTになつたのは、母ドリーミングオヴジュリアを手掛けているトッド・プレツチャードだ。

夏のサラトガでデビューした母よりは2か月ほど遅れて、マラサートは10月9日にベルモントパークで行われたマイデン(d7F)でデビュー。スタートダッシュは鈍く、前半は6頭立ての5番手を追走したが、徐々に番手をあげて3コーナー過ぎに先頭に立つと、そのまま押し切り2着以下に1/3馬身差をつけて優勝。デビュー1勝ちを飾った。

2戦目となつたのが11月6日にアケダクトで行われたLRTテンブティッドS(d8F)で、Jの日もダッシュは鈍かつたものの、鞍上に促され1Fほど進んだあたりでハナに立つた。2番手の馬が常に外から半馬身差でプレッシャーをかけて来るという厳しい展開になつたが、直線に向くと同馬の独壇場となり、最後は後続に7.3/4馬身差をつける快勝となつた。

同馬の重賞初挑戦となつたのが、12月5日にアケダクトで行われたG2デモワゼルS(d9F)で、前走で鮮やかな競馬を見せたマラサートは、オッズ1.45倍という圧倒的1番人気に推されるJCTになつた。懸念材料があるとすれば、JCTまでの2戦はFastという乾いた馬場だったのに対し、Jの日は Sloppy となる極悪馬場になつたJCTで、図らずもJの懸念は的中するJCTになつた。

Jのレースは、皆様ぜひ映像でJの確認いただきたい。3戦目にして初めて好発を決めたJの日のマラサートは、3番手につけるJになつたが、向こう正面に入る頃から行きっぴりが良くなく、鞍上の手綱が早くも動き出したのである。明らかに馬場の悪さに手こずっている様子で、鞍上が促しても前進気勢は弱まるばかりで、勝負JのJの3〜4コーナー中間では5番手まで下がつてしまつたのだ。

しかし、デビューから無敗の3連勝で重賞制覇を果たしたマラサートはケンタッキーオークスの最有力馬に浮上するJCTになつた。

拙文をお読みいただき、マラサートにご興味を持ち、ご自身での馬の血統や成績を繙かれる方もおられると思うが、恐らくは最初に検索にかけた段階で、誰もが戸惑うことになろう。2018年生まれの現3歳牝馬には、実はもう1頭のマラサートがいるのである。

Racing Postでも Equineline でも簡単にJの確認いただけるが、本稿でJ紹介したケンタッキー産の Malathaat (USA)以外に、愛国産の Malathaat (IRE)がいるのだ。なおかつ、愛国産のマラサート(父フランケル)も馬主はシャドウエルのハムダン・アル・マクトゥームなのである。同じ馬主さんの同じ世代に、同名異馬がいるというのは、いつたいJのJのJのような連絡ミスがあつたのだろうか?!

ちなみに Malathaat (IRE)は、10月21日にケンプトンのノーヴィス (AW7F)でデビュー。10頭立ての7着に敗れ、Jの1戦のみで2歳シーズンを終えてJCTになつたのである。

見えたマラサートが、直線に向くと力強くフットワークを取り戻し、猛然と追撃を開始。先行していたミルフィーユ(牝3)を4馬身交わして、差し切り勝ちを果たしたのである。